渋高 PTA新聞
発行所　渋川高校
印刷所　大塚カラー

マラソン大会スタート直後

卒業にあたり

PTA会長　埴田裕之

三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、ご子息が立派に成長をされ、卒業を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。そして、校長先生をはじめ、先生方におかれましては、生徒たちを自由で心素直な渋高生へと、導いてくださいましたことを、保護者を代表して、心よりお礼申し上げます。

渋高の三年間は、長い人生のごく一握りの時間の中ですが、皆さんは立派に成長されました。これはひとえに勉強や部活動、課外活動等での達成感、時には挫折感を味わいながらも、一生懸命に努力した結果です。また、家族・先生・友人・先輩・後輩との信頼関係の賜物と思います。

これから、社会への一歩を大きく踏み出します。是非【想像力】を武器にしてください。想像力とは、存在しないものを描き、生み出す、人間特有の能力です。ギリシャの哲学者プルタルコスは、「自分の内部で達成した物事は、外部の現実を変えていく」と残しています。渋高で培った教養と自身の才能で、人々に影響を与え、未来を切り拓いてください。世界を変えるのに魔法は要りません、皆さんは既に想像力という世界を変える力を持っています。また、【失敗を恐れない】でください。才能や教養があっても失敗せずに生きることは不可能です。慎重に生き過ぎることは、それ自体が失敗です。失敗を経て得る強さや賢さは賜物で、未来を生き残る鍵となります。また、自分自身や他者との絆の強さは、逆境に立つことで理解でき、価値があるものと私は思います。

東京オリンピック、渋高創立百周年記念事業が行われる年、そして新元号令和初の卒業生です。正に歴史の節目にあたり、素晴らしい巡り合わせです。長い人生ですが、長さではなく、質を大事に頑張ってください。

結びになりますが、卒業生の皆様に、心からの祝福を贈ると共に、渋高の益々の発展と教職員および在校生、保護者のご健勝を祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

平成を振り返って

校長　高橋　滋

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。三年間の高校生活は身も心も大きく成長すると言われています。保護者の皆様には、お子様の成長ぶりに感慨深いものがあることだと思います。

渋川高校は今年四月で創立百周年を迎えますが、その直前での卒業は後ろ髪引かれる思いもあるでしょう。しかし卒業生の皆さんにとって、四月からの新しい生活にはそれを上回る大きな期待が待っています。時には渋高へ戻ってきて、新しい生活の報告などしてもらえれば担任や顧問の先生方はさぞ喜ぶことでしょう。

さて、三十年に及ぶ平成の時代が終わり、昨年五月から「令和」が始まりました。平成の時代は高校にとっては「変革による激動の時代」でした。学習指導要領改訂の告知は平成元年から十年ごとに行われています。これを簡単に振り返ってみます。

平成元年、個性を生かす教育すなわち新学力観やいわゆる「ゆとり教育」が主張され始めました。単位制高校が生まれるなど高校の多様化や細分化が打ち出され、社会科は地理歴史科と公民科に分かれ、家庭科が男女必修となりました。

平成十一年、「ゆとり教育」が全面的に取り入れられ「生きる力を育む教育」が叫ばれました。教科「情報」「総合的な学習の時間」「オーラル・コミュニケーション」が必修となり、学校全体での「キャリア教育」が推進されました。平成十四年には学校完全週五日制が実施されました。

平成二十一年、「確かな学力」が求められ「脱ゆとり教育」が推進されることになりました。地歴・公民科では尖閣諸島や竹島といった領土問題に触れ、国としての主張が教科書に明記されることとなりました。また多くの自然災害によりボランティア活動の重要さが見直され、学校でのボランティア教育が推進されました。

平成三十年、「主体的・対話的で深い学び」の学習方法による「探究型授業」が全教科で行われることとなりました。高校における全面実施は令和四年からとなります。

このような流れの中で、渋高は平成の幕開けとともに創立七十周年を迎えました。その後、家庭科必修（平7）、定時制課程閉校（平10）、校舎全面改築（平13～16）、学校五日制実施にともない45分授業開始（平14）、少子化の影響を受け段階的に学級減（24→21→18→15）（平10～19）が行われました。対沼高定期戦は平成年間では8勝10敗と負け越しています。

渋高も令和の時代とともに新しい取り組みを始めます。十八年間続いた45分授業を55分授業とすることで、生徒が確かな学力を身につけ、進路実現に向けた強い味方となるよう、全教職員で取り組んでいきます。保護者の皆様には今後ともご理解ご支援のほどよろしくお願いいたします。

ＰＴＡ全国大会参加報告

ＰＴＡ副会長　町田　陽子

令和元年八月二十二～二十三日、第六十九回全国高等学校ＰＴＡ連合会京都大会が、平安神宮に隣接するロームシアター京都、みやこめっせにて開催されました。本校からは高橋校長先生、中曽根先生と四名の本部役員が参加いたしました。「Ｋｙｏから！未来を拓く」をメインテーマに、子どもたちの未来や今後のＰＴＡ活動を創り上げるきっかけづくりを目的として、様々な催しがありました。

一日目、第一分科会は〈よくできる〉とはどういうことか？をテーマに、京都大学の永田名誉教授を講師に招き、基調講演とパネルディスカッションがありました。第二分科会は、「子どもたちを育む環境づくり」をテーマに、小グループの意見交換会が行われました。第三分科会では「すぐそこの未来のしごと」をテーマに株式会社片岡製作所片岡社長の基調講演とパネルディスカッションがありました。第四分科会は、「高校生の人間関係について考える」をテーマに、佛教大学原副学長の基調講演とパネルディスカッションでした。第五分科会では、ＬＩＮＥ株式会社の三名を迎え「情報教育を体験する」をテーマに、講演とワークショップがありました。第六分科会は、「我が子の進路選択にどう向き合う？」をテーマに、リクルートマーケティングの講演がありました。

二日目は、日本電産株式会社永守会長を迎え、「学校教育、家庭教育に思うこと」をテーマに、記念講演がありました。そして大会参加後は、国立博物館、三十三間堂、東福寺などを訪れ、数多くの　国宝を見学しました。北野天満宮にも立ち寄り、三年生全員の合格祈願をしていただきました。

短い時間ではありましたが、今後のＰＴＡ活動や子育ての参考となる、大変有意義な時を過ごすことができました。

関東地区高等学校ＰＴＡ連合会総会

ＰＴＡ監査　清水　克彦

昨年七月。大宮駅に到着し、小雨降る中で会場の大宮ソニックシティーへ向かいました。今回初めて参加させていただく一泊二日のＰＴＡ関東大会。しかも私が発表者です。最初にびっくりしたのは、駅から続く長蛇の人波がそのまま会場に列となって呑み込まれる様。各県ごとの案内板やのぼり。場違いなところに来てしまった…と後悔していると、開催関係者の「おはようございます」「ご苦労様です」の声と優しい笑顔にたいへん救われ、元気をいただきました。

まずは本会場を見学し、明日の発表会場の下見をしてから昼食をはさんで打ち合わせと、忙しい時間を過ごし、いよいよ開会です。来賓の方々の挨拶後、向井亜紀さんの記念講演「夢が生きる力になる」を聴かせて頂き、感動そのままに宿へ。明日の発表準備に取り掛かるも、校長先生方より夕食のお誘いをいただきました。学校ではお聞きすることのないであろう貴重なお話と、和やかな雰囲気とについつい…。息子の下準備の悪さを注意するどころではありませんでした。

翌日は早めに宿を出て、会場に向かいました。いくつかのブースに分かれてそれぞれの学校発表です。今回は埼玉県立ふじみ野高校様と、我らが渋高と、二校の発表でした。テーマは「文武両道を支えるために」。少しだけ時間をオーバーしてしまいましたが、無事に終了しました。校長先生をはじめ、関係していただいたすべての先生方、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

今回埼玉大会に参加させて頂き、様々な方々が未来に向かう子供たちを一生懸命に支援する姿を拝見し、私自身も勇気づけられました。「言うは易く行うは難し」ではありませんが、「言うだけなら誰にもできる」の状態にはならないよう、出来る限りの支援を続けてまいります。

「在校生との交流会」、おすすめですよ

渋川高校東京同窓会会長　宮崎　則行

「自分のやりたいことに夢中になろうと言われ刺激になった」「先輩方の応援、ありがたく感じた」。これは去年八月実施された「在校生との交流会」に参加した渋川高校の生徒達の声です。

この「在校生との交流会」、渋川高校の現役生に東京に就職した母校の先輩の企業・関連施設等を見学するとともに先輩の苦労話や受験時代の体験談を聞いて今後の進路の参考にしてもらおうと東京同窓会が二〇一二年から毎年夏休みに実施しているものです。これまで八回行われ、毎年十名前後の参加生徒が日銀貨幣博物館、ＮＨＫ、朝日新聞、キリンビール横浜工場、国立天文台等を訪れました。生徒達は普段目にする機会の少ない所だけに興味深そうに見学していました。因みに前述の、去年の訪問先はＮＨＫの朝ドラ「まんぷく」のモデルとなった日清食品の見学施設で引率の先生に加え高橋滋校長も参加されました。

各回の交流会とも企業・施設の見学後は、レストランで東京同窓会の会員と昼食を兼ねて懇談・「先輩と語る」に臨んでもらっています。席上、各同窓会会員が自己紹介の後に所属企業に就職した理由や苦労話、受験時代の思い出等を率直に語りました。これに対して生徒達は就職企業の志望理由や大学受験失敗談、その克服方法等に強い関心を示し、熱心に質問しては頷いていました。

引率の先生も「素晴らしいイベント」と言われる「在校生との交流会」、今年も実施します。保護者の方々からも息子さんに参加するよう是非勧めて頂きたいものです。

マラソン大会に参加して

ＰＴＡ副会長　廣田ユリ子

昨年十一月六日、ＰＴＡ役員としてマラソン大会に参加しました。当日の天候は快晴、青空の下十一月としては暖かいマラソン日和でした。コースは板東緑地公園をスタートして、大崎緑地公園を折り返すという約九キロの距離です。

生徒たちはどのような思いで参加したのでしょうか。一年生は長い距離を走ることに不安だったのではないでしょうか。二年生・三年生は前回の経験をもとに、それぞれの目標を持って走っていたのではないでしょうか。走り終わってスポーツドリンクを取りに来た時の、汗を流し、疲れ切って肩で息をしている表情はとても清々しく、達成感に満ちていました。走らない生徒もそれぞれの役割を果たしていました。生徒たちは自分がゴールした後も、友達を大きな声で応援したり、伴走したりしていてチームワークの良さが感じられました。先生方、保護者の皆さんも大きな声で応援していました。

来年は百回目となる記念マラソン大会となります。記憶に残る大会となることでしょう。

大会にあたり、先生方、またお手伝いいただいたクラス役員の保護者の皆さん、無事に終わることができて良かったです。ありがとうございました。

三年間を振り返って

三学年主任　津久井　俊明

本日三年生一九二名が無事卒業を迎えることができました。保護者の皆様、誠におめでとうございます。三年間様々な面で学校の教育活動にご支援を賜り、心より感謝申し上げます。私自身この日を迎えることができ、ほっとする思いとともに心よりうれしく思います。

入学当初学年目標として「基本的生活習慣の確立」、「学習習慣の確立」、「文武両道の実践」の三つを掲げてスタートしました。文武の武にあたる部活動ですが、部活参加者は多く、一年七月の定期戦でも、一年生が大いに活躍し勝利することができました。二年次の文化祭、体育祭やマラソン大会でも力を発揮し、部活動や学校行事に真剣に取り組む姿勢が印象に残っています。授業に出ている先生方からも「元気がよく、反応がいい。」といった声を聞くこともありました。なかなか実践できなかったのが学習時間の確保でした。一年次から学習時間を増やすために生活を見直し、計画表を作ったりしましたが、なかなかエンジンがかからず苦労しました。二年の後半になり、進路目標が徐々に定まってきた頃から、学習時間も増え、前向きに学習する生徒が増えてきました。三年次の学習合宿や、冬の自主学習会にも多くの生徒が参加し、ようやく受験生との自覚が出て、本来の渋高生の姿になったと安堵しました。現時点では進路の結果がまだ出そろっていませんが、一人一人がそれぞれの進路を実現してくれることを願っています。

この三年間の高校生活を通じて、全員が大きく成長し、立派な渋高生になりました。渋高で学んだことを基礎として、これからの世界を担う人材として大きく羽ばたいていってください。健闘を祈ります。

一年を振り返って

二学年主任　梶原　文昭

保護者の皆様には、一年間本校の教育活動にご協力いただきありがとうございました。この一年間を振り返ってみますと、「定期戦」「体育祭」「マラソン大会」など男子校らしい体育的な行事が多くあり、クラス対抗的な要素もあって大いに盛り上がりました。また、部活動に所属している生徒は日々の活動やその大会等で、三年生引退後中心となり活動しています。特に運動部では部員全員が選手となることはできないかもしれませんが、日頃から大きな声を出して練習し、緊張した中で行う大会への出場やその応援を皆で行うことはこれからの人生の宝となるものです。そして二年生の最大の行事の「沖縄修学旅行」では、天候にも恵まれ充実した四日間となりました。普通では経験できない「戦争体験についての講話」を始めとした平和学習や、異国とも思えるような日本の南端の文化や風習などを直接感じることができました。この修学旅行は、あと一年に迫ってきた大学入試に向けて、本格的なスタートを切る機会になる行事です。大学入試は団体戦と言われますが、修学旅行の四日間で二学年「チーム渋高」の団結も大いに深まったと感じています。まだ、大学入試に向けて本気になって学習を始めている生徒は多いとはいえない状況ですが、志望校に合格するためには三年生になる前の二年三学期が大変重要です。一月、二月は全員模試がありましたが、希望者模試にもたくさんの生徒が受験し、明らかに大学進学への意識の高まりがあると思われます。今までは日々の課題に追われていた生徒が、自分自身の将来を本気で考え自主的に学習に取り組み、大いに学力を向上させる生徒が出てくることを期待しています。部活動の引退まで文武両道で忙しい生活も続くと思いますが、生徒が健康で安全な学校生活を過ごし、学力を含めた人間力の向上を実現させていけるよう、今後ともご協力をお願いいたします。

来年度に向けて

一学年主任　飯塚　宏樹

卒業生の保護者の皆さん、ご子息のご卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんには、渋川高校での三年間で得た力を礎に力強く未来を切り開いていってほしいと思います。

一年生もこの一年間、先輩を見習って、少しずつですが、「渋高生」になってきました。今後も先輩方の歩みを道しるべとして、二年後の卒業の日を晴れやかな笑顔で迎えられるように、これからの高校生活をしっかりと歩んでほしいと願っています。

昨年四月九日に渋川高校に入学した当初は、慣れない環境に戸惑いがちだった一年生も、今になってみれば、すっかり慣れて、心身両面において格段にたくましくなっているように感じます。再試や補習、課題に追い立てられながらも学習を重ねる一方で、自らの将来について模索したり、部活動や生徒会活動などに熱心に取り組んだり、日々の生活の中でのさまざまな営みが彼らの成長を促しています。普段はなかなか気づかないことですが、ふとした折に、その成長を感じ、頼もしく感じ始めています。

四月からは二年生となって、様々な場面で学校の中心として活動することが多くなります。将来の進路についても、これまでよりさらに現実的なものとして考え、その実現に向けて具体的に取り組んでいかなければなりません。六月にはこの学年にとってはただ一回の榛嶺祭が、十月には高校生活で最も大きな行事の一つである修学旅行が待ち構えています。また、十一月には、本校の百周年の記念式典が行われます。記念すべきこの年に在籍できることは貴重な経験です。それも含めて様々な経験によって、より強くよりたくましく成長してほしいと願っています。

この一年、保護者の皆様には、大変お世話になりました。これからの一年、そして卒業を迎える次の一年は、今まで以上にお世話になる機会が多くなると思います。今後とも、ぜひよろしくお願いいたします。

訃　報

本校養護教諭であった 唐澤　尚美 先生は、病気のため令和元年十一月二日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げ、保護者の皆様に改めてご報告申し上げます。

なお十二月から、渋川工業高校より養護教諭の 青木　智子 先生をお迎え致しました。本校の印象についてお聞きしました。

養護教諭
青木　智子

渋川高校はというより、渋高生には校訓もさることながら、礼儀正しく真面目な印象を持っています。男子校ということもあり、元気で皆が自分を持っていてしっかりしているという想いを抱いています。もちろんまだ高校生なのだから、迷いを抱いたり、自信をなくすこともあるかと思いますが、そのような壁に当たっても一度立ち止まりあせらずじっくり考えて、前に進む力を持っていると思います。実際にそういうときは焦っても仕方がないですし、自分の内面を見据えて、尚且つ周りを冷静に見て、この状況で今、自分はどう動くべきかを考えることが大事だと思います。

それから渋高生は、こちらが一つのことを言うと、それよりもたくさんの意味を汲み取って実行してくれることもありますし、自主性があり先の見通しが立てられる生徒が多いと感じます。勉強や部活動とやるべきことを頑張り、さらなる高みを目指して自己実現に向けて努力している姿は、自分も鼓舞されます。本当に良い生徒、良い学校だと思います。

でももし、一つ言わせてもらうなら、挨拶をもう少し大きな声ではっきり言うと良いと思います。校内はもちろんですし校外でもできると良いと思います。挨拶をされて嫌な気持ちになる人はいないし、挨拶はコミュニケーションの 入り口であるからです。

これからまだまだ勉強、一生勉強です。今のような純粋な気持ちを持ち、誰からもいつも何かを吸収できるような心の柔らかい温かい大人になっていってください。

「一期一会」、渋川高校で仕事ができて良かったです。

沖縄修学旅行

令和元年十月二十二日～二十五日までの日程で、二年生が沖縄へ修学旅行に行きました。初日は平和祈念講演、二日目はクラス別で平和学習と国際通りでの班別行動、三日目はタクシー研修、四日目は首里城見学と、充実した三泊四日になりました。

以下は、帰着後に生徒が書いた感想文より抜粋したものです。

初日に戦争を体験された方からのお話を聞いて、自分が想像していたものよりもはるかに残酷で、恐怖で体が震えるようでした。この日のお話は教科書には載っていない、この日にしか聞けないものでした。今後聞くこともおそらくないと思うので、とても貴重な経験になりました。二日目に見学した摩文仁の丘は、今では景色のきれいな場所ですが、当時は全く違う景色だったのだろうなと思うと、戦争は本当に恐ろしいと思いました。

沖縄戦の実際の写真も見せてもらいましたが、思わず目を背けてしまうほど生々しいものでした。講師の方が「絶対に戦争はしてはいけない」とおっしゃっていましたが、本当にそうだと思いました。

ひめゆり資料館では当時の状況がリアルに伝わってきて心が苦しくなることもあったが、その後の国際通りではしっかり楽しむことが出来て、そのギャップも沖縄の魅力なんだなと思った。

ネオパークオキナワは熱帯に生息している鳥が園内に放し飼いになっていて、餌をやるとその鳥たちがブワっと集まってきて、餌をやり終わった後ももっと欲しがってちょこちょこついてくるのがすごくかわいかった。

飛行機は初めての経験だった。離陸時に体がふわっと浮く感覚や、着陸時の揺れも怖かったが、機内では楽しく過ごせた。

令和元年度　部活動報告

■陸上競技部

【関東高校選手権大会】

800 m　第7位　渡邉　竣介

【群馬県学校対抗】

1500 m　第7位　石岡　温樹
400 m　第6位　佐藤　瑞紀
5000 m競歩　第6位　齋藤　匠史
走幅跳　第5位　濱名　欧
棒高跳　第4位　岩崎　遥人
400 mハードル　第8位　武井　陽呂
砲丸投　第3位　橋爪　智洋
第8位　狩野　流維
1600 mリレー　第6位
（佐藤・松村・森田・長井）

【群馬県高校新人大会】

5000 m競歩　第6位　齋藤　匠史
1600 mリレー　第5位
（佐藤・松村・森田・長井）

■ソフトテニス部

【インターハイ予選】

個人戦　ベスト32　（茂木・黒岩組）
団体戦　ベスト16

■水泳部

【群馬県高校新人大会】

100 m背泳ぎ　第3位　柳澤　碧

■剣道部

【インターハイ予選】

団体戦　ベスト8

【群馬県高校剣道選手権】

団体戦　ベスト8

■柔道部

【インターハイ予選】

個人 100kg 級　第5位　五十嵐佑太

【群馬県高校強化選手選考会】

個人 100kg 級　準優勝　五十嵐佑太

■山岳部

【群馬県高校新人大会】

縦走団体　第5位
縦走個人　第4位　小谷野友希成

■スケート部

【関東高校総体】

1500 m　第8位　梶原　碧
5000 m　第6位　梶原　碧

【群馬県高校新人大会】

1500 m　第3位　梶原　碧
5000 m　優　勝　梶原　碧

■野球部

【全国高校野球選手権群馬大会】

1回戦　渋川 6－0 四ツ葉・玉村・尾瀬
2回戦　渋川 0－4 前橋育英

【秋季関東地区高等学校野球大会群馬県予選】

1回戦　渋川 4－5 吾妻中央

■将棋部

【全国高等学校将棋竜王戦群馬県大会】

個人　優勝　新藤篤隼斗　【全国出場】
準優勝　西巻聡一郎

【関東高等学校文化連盟将棋大会群馬県予選】

個人　優勝　新藤篤隼斗　【関東出場】
第5位　片桐　洸

-SHIBUKAWA SCHOOL LIFE-

アメリカ語学研修

いじめ防止フォーラム

学校説明会

生徒会立会演説会

大学見学会

iproゼミ講演会

学習合宿

体育祭

スケート部・将棋部壮行会

センター試験